



本堂で折祷を受ける参加者



コロナ禍で静かな節分 節分厄除祈禱会

八事山
興正寺

災いを除き、招福を祈願する「節分厄除祈禱会」が2日、八事山興正寺（昭和区八事本町）で行われ、厄よけや無病息災を願う参拝者が訪れました。

今年は12年ぶりに2月2日の節分。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、境内に入る人の数を制限するなどの対策を取った上で、僧侶による護摩祈禱（きとう）一錫杖加

持（しゃくじょうかじ）などが行われました。また、接触を避けるために加持祈禱された升や豆、「開運厄除御守」は紙袋に入れられ、テーブルに置かれたものを持ち帰る

かたちに変更されました。同寺の定期講座「阿息観（あそくかん）」に通っているという伊藤伸一さん（61）は「今年の本厄なので参加しました。豆ま



1月末に豆やお守りを準備する僧侶

きは家でします」と晴れ晴れとした表情でした。また、僧侶の高橋米真さんは「豆まきができないのは残念ですが、ご折祷が一番大切。大難が小難に、小難が無難になれば」と話していました。